

滋賀・国領遺跡  
こくりょう

- 1 所在地 滋賀県彦根市田附町
- 2 調査期間 二〇〇三年(平15) 四月～二〇〇四年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 神保忠宏
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代後半・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(彦根西部)

国領遺跡は琵琶湖東岸にあり、湖岸までは約2kmに位置する。愛知川右岸の自然堤防がやや落ち込む地点にあたり、現在の集落に隣

接する水田地帯にある。近くの八幡神社には永仁六年(一二九八)の銘をもつ七重石塔がある。  
今回の調査は県道建設に伴うもので、約三〇〇〇㎡を調査した。調査の結果、平安時代の掘立柱建物三棟・溝・土坑・井戸など、

室町時代の溝などを検出した。

今回報告する柿経は、神崎郡条里方向とほぼ同じ方位の溝から出土したもので、この溝は幅約3m深さ約三五cmを測り、下層からは平安時代の遺物が出土した。柿経はこの溝の上層で、溝の中心より南側、直径約1mの範囲で出土し、比較的原形をとどめた一〇枚は土圧で押され二つ折になった状態でまとまってみつかった。そのほかは周辺に散乱する状態で出土した。総数は三二六点あり、うち文字の記載されたものは二〇六点、接合して出典が判明したものは三六点である。共伴遺物がないたため時期は明確ではないが、薄く平滑に仕上げ、経文を片面のみに書写する形態から、一五世紀中期以降の可能性が高い。

8 木簡の釈文・内容

- |     |              |                  |
|-----|--------------|------------------|
| (1) | × 香身毛孔□□     | (128)×18×0.2 081 |
| (2) | × 品囑累於汝我     | (123)×19×0.2 081 |
| (3) | × 広宣流布於閻浮提無  | (120)×18×0.2 081 |
| (4) | × 龍夜叉鳩槃荼等得   | (118)×18×0.2 081 |
| (5) | × 提人病之良薬若    | (115)×19×0.2 081 |
| (6) | × 病即消滅不老不死宿王 | (133)×19×0.2 081 |

(7)	×若見有受持是經者必以青蓮華盛滿	(168)×19×0.2	081	(21)	×士調御丈	(62)×18×0.2	081
(8)	×散其上散已作是念言此人不久必	(170)×19×0.2	081	(22)	×菩薩大衆恭	(64)×19×0.2	081
(9)	×草坐於道場破諸魔軍当吹法螺擊大	(179)×19×0.2	081	(23)	〔毫〕 ×百豪光明遍	(54)×19×0.2	081
(10)	×度脱一切衆生老病死海是故求仏道	(176)×19×0.2	081	(24)	×薩不起于座身不動	(164)×18×0.2	081
(11)	×持是經典人應當如是生恭敬心	(158)×19×0.2	081	(25)	×耆闍崛山去法座	(165)×18×0.2	081
(12)	〔說是藥王…品時八万四千菩薩得	(63+105)×19×0.2	019	(26)	×蓮華閻浮檀金為	(160)×17×0.2	081
(13)	〕解一切衆生語…尼多寶如来於寶塔	(55+104)×19×0.2	019	(27)	×鬢甄叔迦寶以為其臺	(167)×18×0.2	081
(14)	×善哉善哉宿王華×	(75)×19×0.2	081	(28)	×是蓮華而白佛言	(168)×18×0.2	081
(15)	×德乃能問釈迦牟尼佛如×	(87)×19×0.2	081	(29)	×有若干千万蓮華	(166)×18×0.2	081
(16)	×音菩薩品第二十四	(107)×19×0.2	081	(30)	×葉金剛為鬢甄叔迦	(164)×17×0.2	081
(17)	×尼佛放大人相肉髻光明及放	(135)×19×0.2	081	(31)	×迦牟尼佛告文殊師利	(163)×18×0.2	081
(18)	×光遍照東方百八万億那由他	(127)×19×0.2	081	(32)	×從淨華宿王智佛國	(155)×17×0.2	081
(19)	×有世界名淨	(63)×19×0.2	081	(33)	×而來至此娑婆世界	(161)×17×0.2	081
(20)	×智如来應供	(65)×19×0.2	081	(34)	×王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壞	(152)×18×0.2	081

香身毛乳

(1)

品属累於洪钱

(2)

廣宜流布於開道提無

(3)

龍夜又鳩般茶茅得

(4)

想人疾之良藥若

(5)

痕即消感不老不死宿王

(6)

在見有受持是經者應以半月蓮華盛滿

(7)

敬其上人

作日今今

此人不久也

(8)

去年東放道後破諸羅軍官以好報奉人

(9)

度第一眾生若此海是故奉佛道

(10)

持是經共人應當如法生恭敬

(11)

說定其藥

其四特八百下善摩得

(12)

解可眾生

凡多愛而未取解且

(13)

言哉善哉宿王

(14)

以乃能問之十尼佛如

(15)

三言善哉宿王

(16)

尼佛版大人相肉鬚光明友放

(17)

凡遍 禮東五百八下億那由他

(18)

頤甄外邊窳以爲其量  
(27)

蓮華間浮檀金爲  
(26)

目闍囉少者法座  
(25)

薩不越<sup>レ</sup>座身不動  
(24)

名可家元相漏  
(23)

言薩大衆恭  
(22)

工調餘丈  
(21)

白如來應化  
(20)

何世界名淨  
(19)

言是注  
(36)

二所說事故  
(35)

王難苦臨刑啟壽終念彼觀音方乃尋院院壞  
(34)

乘至此<sup>レ</sup>婆世寄  
(33)

從淨華宿王智佛國  
(32)

牟尼佛名文殊師利  
(31)

系金剛爲鬚甄外邊  
(30)

自若干千萬蓮華  
(29)

蓮華四百佛言  
(28)

(35)   是故

(120)×17×0.2 081

(36)  是注

(118)×19×0.2 081

経文は一枚に一七文字を記す。(1)～(15)は『妙法蓮華経』薬王菩薩本事品第二三で、(1)は一四八行目、(2)～(4)は一五〇～一五二行目、(5)～(15)は一五四行～一六四行部分である。(12)(13)は圭頭状の頭部が残る。(12)は一六一行目であるが中間で四文字「菩薩本事」が欠ける。(13)は一六二行目であるが、中間で三文字「言陀羅」が欠けている。(16)～(33)は『妙法蓮華経』菩薩品第二四で(16)はその巻首である。(17)～(23)は一行目～七行目部分、(24)～(33)は二九行～三八行目部分である。(34)は『妙法蓮華経』観世音菩薩普門品第二五の九七行目である、五文字ごとに間隔を区切って記す。(35)(36)は経文は特定できていない。

## 9 関係文献

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会『国領遺跡』(二〇〇六年)

(神保忠宏)